

「安全で安心な学校づくり」

危機管理マニュアルの整備・改善

児童生徒の
安全対応
能力の育成

安全点検

不審者侵入対策

教職員の危機管理
意識の向上

家庭・地域、関係
機関・団体との連携

ボランティア
組織の整備

栃木県教育委員会

平成18年度

よりよい安全教育を行うために ～危険回避能力育成を目指して～

安全教育では、子どもの将来を見据えて、一人一人が生涯を通じて主体的に安全な行動がとれるようにすることを目指します。

『発達段階に応じた指導』
子どもに危険回避能力を確実に身につけさせるため、発達段階に応じた目標を設定することが大切です。(P2参照)



『安全についての約束』
安全についてのきまりなどを設定することは、思考・判断を補う上で効果的です。(P5～6参照)

『具体的なケース』
どんなところに危険が潜み、どんな対処をすればよいのか具体的に理解させることが大切です。(P3～4参照)



『繰り返し指導』一度の指導で理解できるとは限りません。危機意識を高めるためにも繰り返し指導することが重要です。

年齢別・校種別の安全教育の目標

発達段階に応じて指導して
いきましょう！



小学校 低学年

目標

- 安全に行動することの大切さを理解する。
- 安全のためのきまり・約束を守ることや身の回りの危険に気づくことができるようにする。
- 危険な状態を発見した場合や事件・事故発生時には、教職員や保護者など近くの大人に速やかに連絡し、指示に従うなど適切な行動ができるようにする。

小学校 中学年

目標

- 生活安全にかかわる様々な危険の原因や事故の防止について理解する。
- 危険に気付くことができるとともに、自ら安全な行動をとることができるようにする。



小学校 高学年

目標

- 中学年までに学習した内容を一層深めるとともに様々な場面で発生する危険を予測し、進んで安全な行動ができるようにする。
- 自分自身の安全だけでなく、家族など身近な人々の安全にも気配りができるようにする。



中学校

目標

- 小学校での理解をさらに深め、日常生活に関して安全な行動をとるとともに、日常の備えや的確な避難行動ができるようにする。
- 他者の安全に配慮することはもちろん、自他の安全に対する責任感をもつことができるようにする。
- 学校、地域のボランティア活動の大切さについても理解を深め、参加できるようにする。

【具体的なケース】

ケース1 (道路では)

- 知らない人から声をかけられて連れて行かれる。
- 知らない人の車に連れ込まれる。



対応策

- ☞ 知らない人には絶対について行かない。
- ☞ 知らない人の車には絶対乗らない。近よらない。
- ☞ 怖いと思ったときは、すぐに走って逃げる。
- ☞ 危険なときは防犯ブザーや大声で助けを求める

ケース2 (公園では)

- 木の陰やトイレなどに連れ込まれる。



対応策

- ☞ 公園では一人で遊ばない。
- ☞ 公園のトイレは友達と一緒に行く。



ケース3 (駐車場・駐輪場では)

- 自転車を置こうとしたら、後ろから、抱きつかれる。
- 止まっている車のドアが開いて中に引っ張り込まれる。



対応策

- ☞ 駐車場や駐輪場では遊ばない。
- ☞ 自転車を置くときはあやしい人がいないか注意する。
- ☞ 車の中にあやしい人がひそんでいないか注意する。



ケース4(エレベーターでは)

- エレベーターの中で体をさわられる。
- エレベーターを降りたところ、腕をつかまれ物かげに連れて行かれる。



対応策

- ☞ 知らない人と二人きりでエレベーターに乗らない。
- ☞ 知らない人が乗ってきたらすぐに近くの階で降りる。
- ☞ エレベーターの中ではボタンが押せる位置に立つ。
- ☞ エレベーターの中では相手に背中を向けない。

ケース5(階段・おどり場では)

- 腕をつかまれ、物かげや屋上などに連れて行かれる。



対応策

- ☞ 階段やおどり場では一人で遊ばない。
- ☞ 腕をつかまれたら大声で助けを求めろ。



ケース6(玄関では)

- ドアの鍵をあけたとき、後ろから中に押し込まれる。
- 配達員のふりをして、ドアを開けさせて家の中に押し入る。



対応策

- ☞ 玄関の鍵をあけるときは、まわりを見わたして、あやしい人がいないかを確認する。
- ☞ 子どもだけで、留守番しているときは絶対にドアを開けない。
- ☞ 家の点検といわれても絶対に中に入れない。

こんなふうに、
安全教育をやってみよう。

【キーワード】

- ①危険予測、危険回避
- ②意思決定、行動選択
- ③生命尊重
- ④地域活動への参加

防犯教室の場合

【実践場面】

- ・生活科
- ・総合的な学習の時間
- ・特別活動
- 等で行う。

(1)犯罪の危険性を知る

被害例：暴行、傷害、略取誘拐、窃盗、性的暴行、インターネット上の違法・悪質情報、不審電話など

危険箇所：①狭い道路、見通しが悪い場所、人通りが少ないところ、やぶや路地、倉庫、空き家など人が身を隠しやすい場所が近い、大型車が頻繁に通るなど【p 3、ケース1参照】
②公園や空地など不特定の人が容易に入りやすい場所【p 3、ケース2参照】
③駐車場・駐輪場など【p 3、ケース3参照】
④過去に犯罪が発生した場所
⑤障害物の放置、落書きのある場所、その他【p 4、ケース4、5、6参照】

避難場所：交番、「子ども110番の家」、商店、ガソリンスタンドなど

(2)危険予測の仕方、危険回避方法、
通報の仕方を身につける

予測の仕方：①通学安全マップづくり、ケーススタディ、ロールプレイング
など

※低・中・高学年、中学生の発達段階に応じて
※様々な場面を用いて

回避方法：①(通常)危険に近づかない
②(緊急)大声を上げる。防犯ブザーを使う。逃げる。助けを求める。

通報の仕方：模擬電話などによる指導(110番・119番)

(3)意思決定、行動選択をする。

安全を優先。適切に、意思決定・行動選択。

(4)意思決定、行動選択をする。

自分が被害者の場合：回避方法の②を実践する。
自分が目撃者の場合：冷静になる。負傷者を安心させたり、励ましたりする。
助けを呼ぶ。
必要によっては、止血法・心肺蘇生法。

防犯避難訓練で

【方法】

- ①実地訓練
- ②図上訓練
- ③シミュレーションで実践する。

(5)自他の生命を尊重する。

自他の生命や安全の態度、人権・人格を尊重する態度を育てる。

(6)環境整備への協力や社会参加の必要性を図る。

地域の安全活動(落書き、放置された障害物等の修繕・撤去)等に進んで参加する。
地域の防犯活動、防犯ボランティア、「子ども110番の家」等に感謝の心をもつ。

〈留意点〉

- (1)防犯教室等は、年に1回行うだけではなく、学級、学年、時間などに柔軟性をもたせ、複数回行うことが大切です。
- (2)防犯避難訓練では、警察や防犯協会などの防犯の専門家と連携し、具体的な場面を想定し、非常時に対応できる力(実践力も含め)を養いましょう。
- (3)専門家と学校の事前打ち合わせを十分行い、児童生徒への事前指導・事後指導で効果を高めましょう。

「もしも…」の場合は、どうする？

- ・通報の機器が使用できない場合は？……………連絡方法を再確認しましょう。
- ・校長と教頭が不在の時は？……………指示系統を確認しましょう。
- ・子どもが被害にあったら、どうする？……………優先順位を確認しましょう。

実施計画の改善と工夫

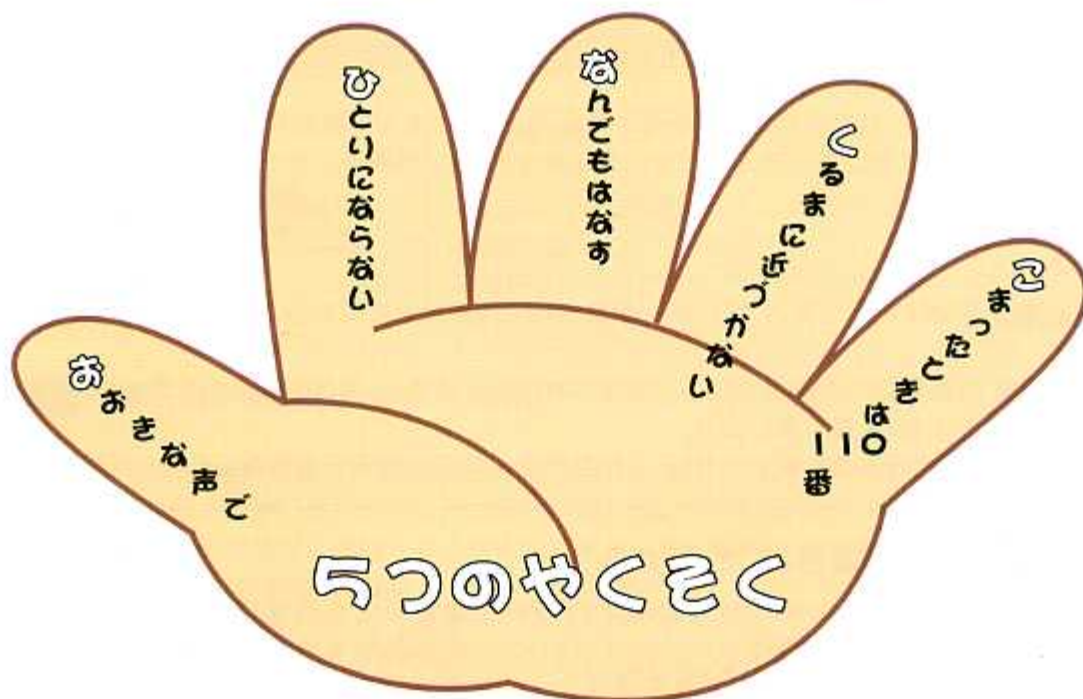
◇安全に関する計画(学校安全計画)に従って、安全教育と安全管理の内容を統合し、全校的立場から、年間を見通した安全に関する諸活動の総合的な基本計画として立案しましょう。

◇一人一人の子どもが目標をどの程度達成したかを知るとともに、教育内容や方法における問題点を明らかにし、よりよい教育内容・方法を作り上げていきましょう。

- (評価の例)・実施した内容や方法が適切であったか。
- ・教職員の役割分担が明確か。
 - ・校内の体制が確立し、機能していたか。

- ・日程や時間に問題はなかったか。
- ・家庭や地域の関係機関・団体等との連携が図られていたか。など

あんぜんについてのをやくそく



もし、つれていかれそうになったら → **いかのおすし**
 いかない のらない おおごえでさけぶ すぐにする しらせる

☆こんなことを先生や家の人とやってみましょう！

- 大声で助けを呼ぶれんしゅうをしましょう。
- 防犯ブザーの使い方をれんしゅうをしましょう。
- 家の人や先生と通学路を歩いて安全を確かめましょう。
- こわい思いをした様子をきちんと伝えるれんしゅうをしましょう。

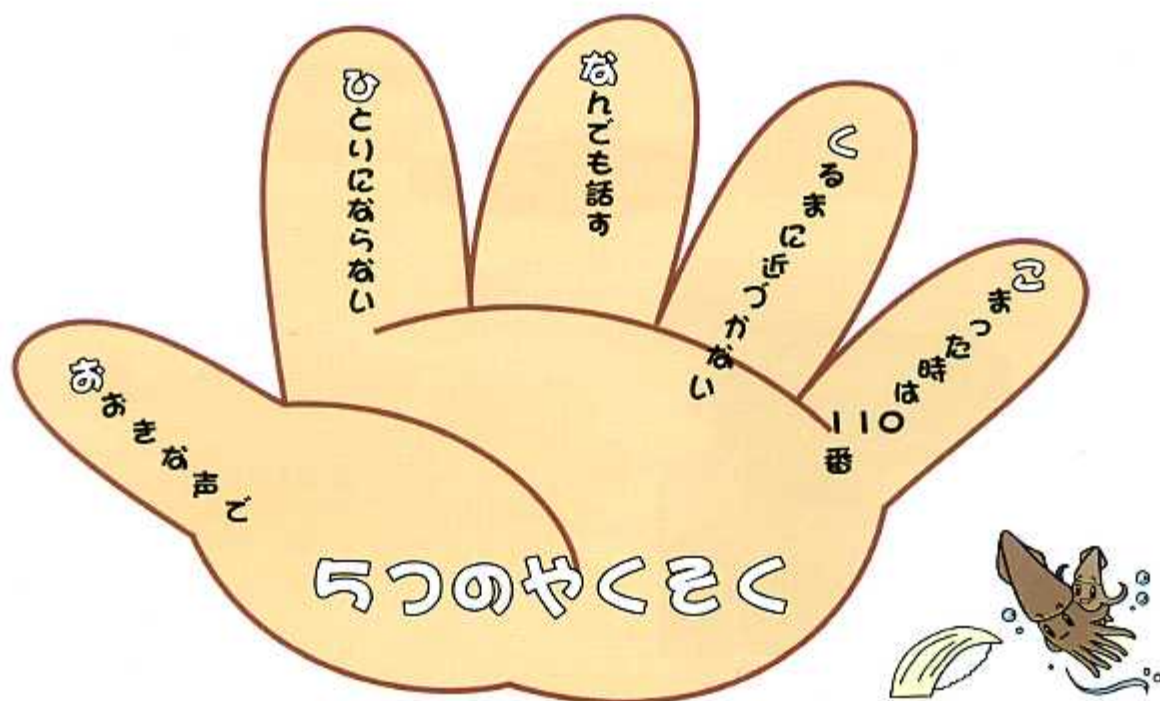


☆こわいとき、こまったときにしらせるところはどこ？

だれ	電話番号や場所
家の人	
家の人にれんらくがとれないとき	
助けてくれる家や店()	

☆お世話になっているスクールガードリーダーさんやスクールガードさんの名前

安全についての約束



もし、連れていかれそうになったら → **いかのおすし**

いかない のらない おお声で叫ぶ すぐ逃げる しらせる

☆不審者等を発見した時、次のような点に留意して連絡する練習をしてみましょう。

項 目	メ モ
①誰が、どう困っているのか。	
②どんなことが起こっているのか。	
③いつ、どこで起こっているのか。	
④不審な人の服装や乗り物などはどんな様子か。	
⑤他に伝えることはないか。	

☆緊急時の連絡方法・手段・場所等を確認しておきましょう。

誰 に	連絡方法・手段・場所等
家の人	
家の人に連絡のとれないとき	
助けてくれる家や店()	
学校	
近くの警察、交番	

子どもの安全を確保する組織活動を見直してみませんか

栃木県では「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」を展開し、スクールガードを中心にたくさんの方が子どもたちの安全を守るために活動しています。

スクールガード



登下校の時間帯を中心に、ボランティアで通学路や学校周辺の巡回、同伴をしています。

スクールガード・リーダー

- ・スクールガードと一緒に活動し、巡回方法や経路等を指導します。
- ・校門等の施設管理、学校周辺の安全管理体制、安全マップ作成の指導をします。
- ・防犯訓練等への協力をします。



他にも…

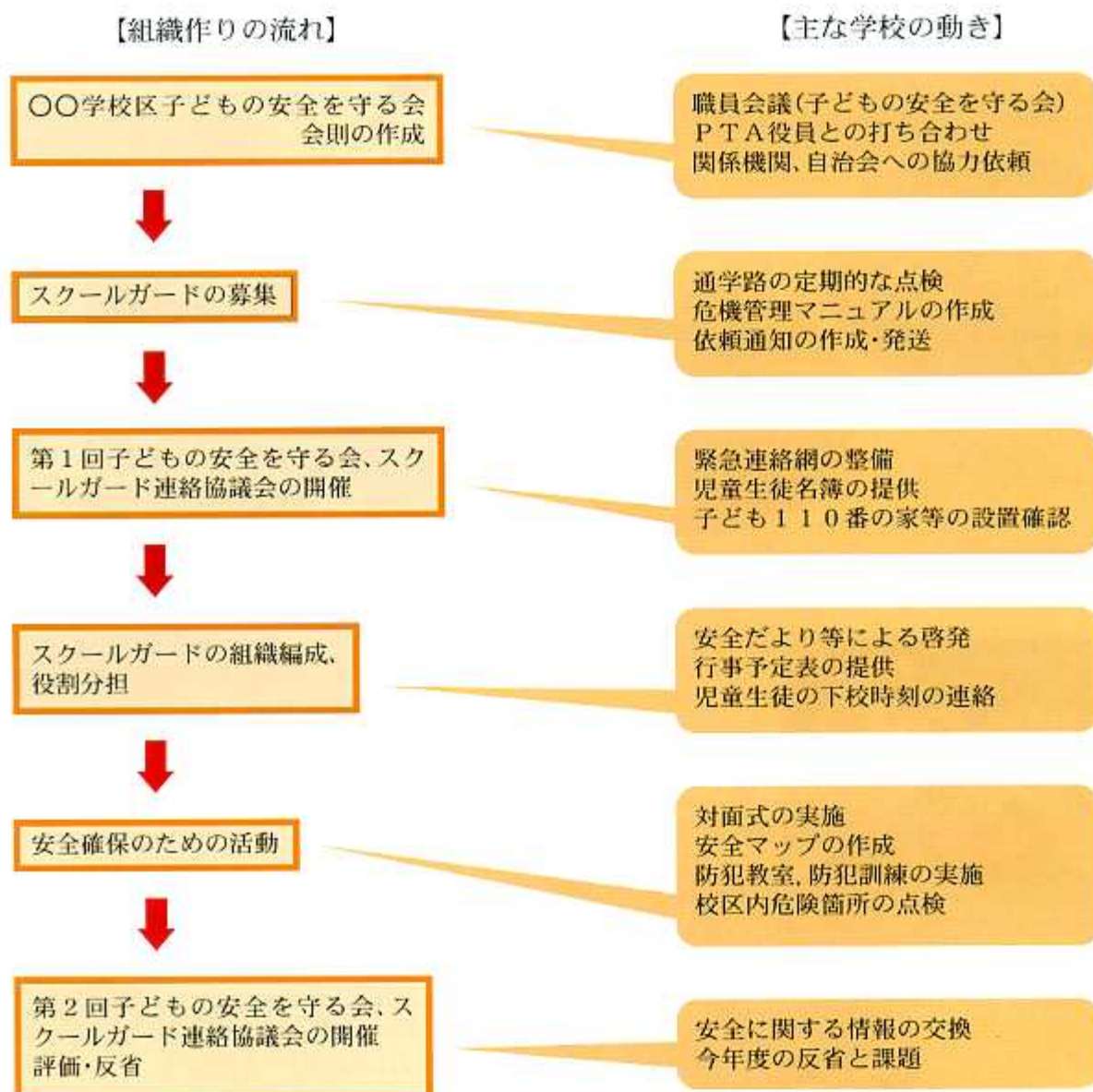


警察スクールサポーター

各警察署に1名(県内20名)の警察スクールサポーターが、上記事業とは別に配置されました。

学校等における児童等の安全確保対策
安全マップ作りの指導
少年の非行防止、立ち直り支援 など

学校安全ボランティア(スクールガード)の組織編成から活動まで



組織編成については、学校がリードしていきましょう

活動中、メモをとると便利です。
メモ用紙を携行しましょう。



MEMO

危険な場所！
不審車のナンバー！
など…

スクールガード活動例

- ① 下校時刻の15分前に防犯ベストを着用して朝礼台前に集合



- ② 方面別の下校班に分かれる



- ③ 子どもたちの下校に同行する



- ④ 帰宅後、学校に連絡を入れる

※グループ編成表等を作成して、長期の予定を連絡しましょう。
 スクールガード・リーダーへの連絡ももれないよう留意しましょう。



ムリなく、ムダなく活動するために

こんな課題はありませんか。

スクールガードの人数が足りない

毎日遠距離を歩くので体力的に負担が大きい



仕事の関係で休めずスクールガードに任せきり

一人にしないように家まで同行しても、帰宅後は外で一人で遊んでいる

下校時刻が変更等、スクールガードへの連絡・周知が大変

毎日子ども達の下校時間に合わせ、家まで、もしくは保護者が迎えに来られるところまで同行活動を続けることは、スクールガードの方にも大きな負担がかかります。暑い日の午後、寒い日の夕暮れとなれば、その負担も倍増します。共働きの家庭が多い昨今、保護者もなかなか仕事を休めないのも現実です。

【こんな点に留意しては…】

- スクールガードの募集を、定期的に行いましょう。
- 早めに予定を立てられるよう、保護者やスクールガードに長期的な予定表を配付しましょう。
- 地域ぐるみで見守ろうという意識を高め、近所同士、協力する体制を保護者にはたらきかけましょう。
- 上級生と下級生との集団下校ができるカリキュラムを検討しましょう。
- 帰宅後、家の人誰もいないという児童には、学童保育を活用することも有効です。
- 円滑に連絡が取れるよう、スクールガード・リーダー、スクールガードをはじめ、関係機関、保護者との連絡体制についての校内組織を見直しましょう。

あくまでも
学校が主体です

継続は力なり！

学校安全Q & A

〈Q 1〉 学校安全の目的は何ですか。

〈A 1〉 児童生徒の安全確保が最優先です。安全教育と安全管理を効果的に機能させるには、学校の体制づくりが大切です。

学校はもとより、保護者や地域、関係機関等と密接な連携協力を図り、地域ぐるみで学校安全の取り組んでいくことが必要です。

〈Q 2〉 学校管理下における児童生徒の事故防止のために、どんなことが大切ですか。

〈A 2〉 学校の施設・設備などの不備による事故は絶対に起こしてはなりません。そのためには日常・定期点検のほかに、専門家による点検も必要になります。また、学校教育活動全体を通じて児童生徒に安全教育を徹底することも大切です。

〈Q 3〉 登下校時における犯罪には、どのようなものがありますか。

〈A 3〉 圧倒的に多いのは痴漢です。「道を教えて」とか「カードをあげる」などと言って近寄ってきて、急に手を引っ張ったり、身体を触れたりする痴漢+誘拐未遂ともいうような事案が増えています。

〈Q 4〉 児童生徒にどのようなことを指導すればいいのですか。

〈A 4〉 児童生徒自身が自分を守る力、いわゆる「危険回避能力」を身に付けることが重要です。そのために防犯訓練・防犯教室において具体的に実施することが大切です。

- 例
- ①いざというとき「助けてー」と大きい声を出し続けること
 - ②安全な距離(約2メートル)をとって対応すること
 - ③防犯ブザーやホイッスルを携帯し、使いこなせるようにすること
 - ④知らない人の車には絶対に乗らないこと
 - ⑤抱きつかれそうになったら、すばやくしゃがんで相手の体勢を崩すこと
 - ⑥自転車に乗っていても人通りが少ない道や暗い道は走らないようにすること

〈Q 5〉 学校で年度当初にどのようなことを行えばよいのですか。

〈A 5〉 まずは学校安全計画の作成です。児童生徒、地域の実態や昨年度の反省を踏まえた計画を作成するとともに、安全教育・安全管理・組織活動が機能する体制をつくることが大切です。

また、子ども110番の家へのあいさつ、スクールガードリーダーへの連絡なども必要です。

発行

〒320-8501 宇都宮市埴田1丁目1番20号

栃木県教育委員会事務局学校教育課 Tel028-623-3392 Fax028-623-3399